



福井の冬は雪景色

1月前半は、雪もなく大変暖かな天気の日もありました。しかし、後半に入り近年にない寒波が日本列島を襲い、日本海側のみならず太平洋岸でも積雪を記録する天気が続いています。県内でも、休校や始業時刻を遅らすなどの対応をとらなければいけない学校も出ました。保護者や地域の皆様も、仕事や日常生活に支障が出ている方もいらっしゃると思います。木田小学校の子供たちは、元気に雪の中登下校しています。ただ、歩道の除雪が出来ておらず、やむなく車道を歩かなければいけない箇所もあります。小中学生の通学路確保のためには地域の皆さんの協力が欠かせません。あちらこちらで、見守りや除雪に力を発揮している方々を見かけます。地域で子供たちを育てるという思いを感じます。

今年は3年ぶりにインフルエンザも流行しています。校内でも多くの子供たちが罹患しており、発熱等で診察を受ける際は、コロナとインフルの両方を疑って診ていただいていると思います。このような状況下ではありますが、国はコロナの感染法上の位置づけを引き下げる方向で検討しています。マスクの着用についても個人の判断に委ねられる方向性です。

今後学校現場でどのように対応しなければいけないのか、我々教職員はまた悩まされそうですが、ここに来て卒業式などの式典では、基本的にマスク無しでの開催の方向性が出てきました。今までも、保護者の皆さんが我が子の晴れ姿を見ることができるよう、壇上ではマスクを外していました。様々な考えがあるなかですが、二項対立にならず少しでも良い方向に向かうよう考えていきたいと思っています。

おもちゃフェスティバル から わくわく交流デー へ

12月に、2年生が1年生を招いておもちゃフェスティバルを開催し

ました。生活科で、身近にある物を使い工夫しておもちゃを作り、たくさんのお店を開きお客さんの1年生と遊びを楽しみました。私もお店を回り、子供たちといっしょに楽しみ、シールをたくさん貼ってもらいました。



2年生と楽しく遊んだ1年生ですが、今度はわくわく交流デーで来年入学予定の園児に楽しく遊んでもらうための準備をしました。体を動かす遊びや昔の遊びでいっしょに楽しみたいと一生懸命計画しました。このように、次の世代へ様々な学びが伝わっていきます。

プログラミングを学ぶ5年生

1/13に5年生がプログラミングを学びました。命令をプログラムすることで色々なものを動かせるという体験をすることで、物事を筋道立て論理的に考えることが子供たちには求められます。大人になると、新しい世界のドアをノックすることに少しためらいを感じるようになりますが、子供たちは次々と様々なことに挑戦していきます。



今年度、国の学力調査にもプログラミング的思考が求められる問題が出ました。5年生の時に算数の授業で「えんぴつ君を動かそう」というプログラムをつくった経験がある6年生の子供たちは、結構正答率が高かったようです。

わくわく交流デー

コロナで2年間実施されていなかったわくわく交流デーが2/7に開催されました。来年度入学予定の新1年生を迎えて、教室では先生と一緒に教科書を開いてみたり、線をなぞる線のおけいこに挑戦してみ



たり、少しだけ小学生気分を味わいました。写真は、園児と一緒に教科書を読む1年生です。「ここを一緒に読もう」と優しく呼びかけ、ゆっくり読む姿が微笑ましかったです。

また、体育館ではお世話係の1年生とけん玉などの昔遊びをして楽しみました。感想発表では、楽しかったという感想がたくさん聞かれました。新1年生を迎えるために少し前から準備をしていた1年生の皆さんが、お兄さんお姉さん気分ですぐにお世話していて、少しばかり頼もしく見えました。コロナで縮小傾向にはありますが、行事を通して成長する子供たちの姿を見るのは楽しみです。

なわとび大会

冬場の体育で取り組んできたなわとびの練習成果を発揮する場として、毎年なわとび大会を実施しています。学年全部が一斉には実施できないので半分に分けての開催です。なわとびは、得意



な子もいれば苦手な子もいます。それでも一人一人自分の目標を定め一生懸命挑戦していました。高学年になると三重跳びに挑戦する子もいて、時間内に十数回跳んでいました。

また、6年生はクラス対抗で大縄競争もしていました。はじめは引っかかってばかりだったのですが、体育の授業や昼休みに練習を重ね、本番ではチームで声を掛け合い、3分以上誰も引っかからずに跳ぶ姿が見られました。

全校音楽集会

2/9の朝、校内テレビを利用して全校で楽しみました。ミッキーマウス・マーチに合わせて手を叩いたり足を踏みならしたりするリズム遊びをしましたが、どの教室でも楽しそうに取り組んでいました。



子供たちと一緒にやってみましたが、手足バラバラにリズムを取るのはなかなか難しかったです。子供たちの方が遙かに上手でした。

ちょっとした遊び感覚のお楽しみが学校の日常にあるのは本当に良いものです。我々教員も朝から宿題出しなさいと叱るより、子供たちと一緒に楽しく笑いながらスタートしたほうが元気が出ます。木田は大規模校なので、全校集まって何かをするには綿密な計画が必要ですが、教室で全校一斉の取組は色々出来そうです。

最近の子供たちの様子から

☆給食を残さずもりもり食べるようになりました。欠席がいても残食がほとんどありません。

☆掃除場所に静かに移動し、黙々と掃除に取り組めるようになりました。

☆朝の会も時間内に終わり、1限目の勉強に時間通りに取りかかることが増えました。

☆朝の登校時間(7:45-8:00)も調整でき、早く来すぎるものがなくなりました。

……本当は、もっと早くに出来ていなければいけないことかも知れませんが、教職員もみんな同じ意識で取り組む中で、子供たちにも落ち着きがでてきているような気がします。しかし、まだまだ自分の感情をコントロールできない子もいます。これからも、よく話を聞いてじっくりと向き合うことを大切にしたいと思います。